

1月24日・2月23日

## 第3回特別講習会を行いました

今年度最後となる第3回特別講習会(全2回)は当クラブ設立1年後の第1回講習会以来7年ぶりに冬の一番寒い時期の開催となりました。今回の講習内容はこれまでの発泡スチロール箱方式から離れて、プランターに腐葉土を使った堆肥作り方式を行いました。3.11 原発事故の影響で入手困難だった国内産腐葉土も、講習会直前には北海道産を入手でき、参加者にお配りすることができました。

1回目の講習会前日は都心に6年ぶりという積雪があり、当日は凍結して足元が悪いなかにもかかわらず、33名(欠席2名)の参加があり、熱心に講習会が行われました。

2回目は出席22名。持って来ていただいた製作中の堆肥を合評しました。

皆さんとても熱心で、堆肥の状態も順調に出来ていた一方、温度が上がらない・水分が多い・あるいは乾燥気味など、気温の低いこの時期ならではの温度と水分の調節についての難しさを感じられていたようです。



参加者の皆さんはスタッフの説明を聞き逃すまいと、のぞきこんだり、メモをとったり・・・質疑応答も活発にあり、さっそく始めよう! という雰囲気にあふれていました。

分科会ではプランターの中の温度がとても上がり、寒い時期でも分解が進み、大成功をされている方もいました。

皆さん、できた堆肥で早く有機野菜や草花を作りたいと・・・とても楽しみ! にしておられました。

### 講習風景

外気温が低い時期は微生物の働きが悪く、生ごみの分解が進みません。しかし次のようなメンバーの試行錯誤の(微生物の働き易いように温度を上げる)工夫で、分解を進ませることが出来ます。

- ◇ プランターなど**容器の周りを段ボールやビニールの梱包材などで巻き、保温**する。
- ◇ 生ごみを**ジッパー付ポリ袋で一次発酵**させる。一週間分ほどを入れて家の中に置いておき、まとめてプランターに入れることで、手間を省くことができる。
- ◇ 昼間は**ふたをせず通気を良くし、水分過多を防ぐ**。夜は**段ボールのふた等をかぶせて保温**する。
- ◇ この時期はなおのこと、**生ごみが細かければ**、微生物が食べやすいから分解しやすくなって良い。

寒い時期での堆肥作りは難しいですが、臭いや虫の発生も少ない良い点もあります。工夫で寒い季節を乗りきって、暖かい季節が来れば微生物も活発に働いて、生ごみが早く分解するようになります。**堆肥を使った野菜や草花を育てる楽しみと生ごみの焼却経費の削減**を得ることができる堆肥づくりを、講習を受けた方々はこの先も一緒に続けていかれることと思います。

## 第3回特別講習会は **プランターに腐葉土を使った方式** を取り上げました

この時期（1月・2月）は微生物の活動を考慮し堆肥作りの方法は、各家庭の環境相違により、**容器は個々に選択**して頂きました。

容器	問題点	解決法
発泡箱	断熱効果はあるが、水分過多になり易い。臭いが発生しやすく堆肥化が遅い。	ふたを開け、布のふたをする。冬季は段ボールのふたもする。
プランター (ゴミ箱)	冬季には保温性に欠ける。	冬季は梱包材で撒いて段ボールの敷物と中ふたで工夫が必要。
段ボール箱	保温力にすぐれるが、乾燥し易い。	ポリ袋を段ボール箱に入れ、上部は開けておく。
コンポスター	地面が必要、冬季は外気温が低く堆肥化が遅い	容器を土に埋める。

### 質問！

Q: 最初に腐葉土を使うのはなぜですか？

A: 腐葉土の中には微生物が沢山います。その働きで**発酵・分解が早い**です。また、腐葉土にはいろいろな生き物がいますが、ダニもいます。それは、**日光には弱い**ので乾いた腐葉土を**2～3日天日乾燥**します。そして、腐葉土を使った堆肥作りはある程度の**通気性**が大切です。

Q: 腐葉土は毎回使うのですか？

A: 腐葉土は**最初の1回**だけで、**米ぬかは使用しなくても大丈夫**です。容器も環境に合わせて決めてください。

Q: 生ごみ堆肥作りは大変というイメージですが、簡単に出来る方法がありますか？

A: 生ごみを分解・発酵し、堆肥ができるのは微生物のおかげです。従って、**微生物の活動しやすい環境を整えましょう**。その主なものは、**外気温（12℃以上）・適度の水分（60%程度）・空気（酸素）・栄養（生ごみ）**です。

Q: 発泡スチロール箱の利点はなんですか？

A: 発泡スチロール箱もある程度の**断熱効果**があるので、**ふたを開けて**堆肥作りを行うと良いです。また、ふたをしてそのまま**放置できる**ということもあるので、ある程度分解・発酵が収束して、熟成期以降の**保存・使用**には便利です。

## 2月18日 **ごみダイエットの講演会に参加して**

私たち 昭和30年代を知っている者にとっては “もったいない” なんて当たり前の事でした。それが 高度成長時代になり “消費は美德” “使い捨て” の言葉に踊らされた結果、物があふれ 粗末にされ 心や物に対し「大切にする」「有り難い」「勿体ない」の心が希薄になってきたように思う。

何よりも 土に 還らないものを産んだ事は未来に対し多大な責を負う結果となった。

“全てを土に” の生ごみ堆肥化はリサイクルの優等生！江戸川区では家庭から燃えるごみとして出される生ごみの割合が46.9%とのこと 生ごみリサイクル活動に託される使命の大きさを改めて痛感する。

会員の皆様に、プランターに**腐葉土を使った方式**の堆肥作りを紹介します。  
この方法は、**容器1つ**で堆肥作りを続けられ、なお大変簡単なのでオススメです。

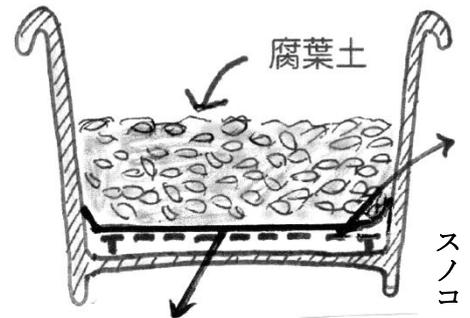
# 腐葉土を使った生ごみ堆肥作り

## ◆用意するもの

1. プランター（縦 33 cm×横 49 cm×高さ 26 cm）・ふた用の布・紐（ゴム紐が便利）
2. 腐葉土（プランター半分位）・シャベル・落ち葉・枯草・米ぬか・その他

## ◆準備

1. プランターの底からゴミが落ちないように、底に水抜き穴のないプランターを使用し、防虫ネットを敷き入れます（図①）。
2. 腐葉土はプランターに入れたまま**2～3日天日乾燥**します。
3. 生ごみは**少し細かくして、水気は絞ります**（写真②）。



① 防虫ネットを敷く

## ◆作り方

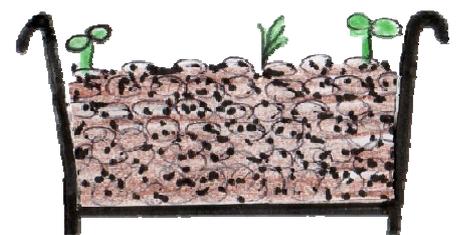
1. 乾いた腐葉土を、プランター半分位いれます。後は毎日又は3日に1度位のペースで、米ぬかをまぶした生ごみを、穴を掘って良く混ぜてから埋めます。（投入した時は、良く混ぜて空気を入れ込み、上の方はゴミが見えないようにします。）
2. プランターは虫よけに布をかけゴムで留め、できるだけ暖かい場所に置きます（写真③）。
3. 生ごみは右側と左側を交互に入れても良いです。
4. 慣れてきたら魚のアラは、米ぬかを多めにまぶして入れても大丈夫です。
5. プランター8分目になったら、半分を別の容器に分け、土を同量入れ熟成を待ちます。（約3月程度置いて使用できる状態になります（図④）。）
6. 熟成途中の堆肥残り半分は、元のプランターでそのまま堆肥作りを続けます。



② 投入するごみの大きさ



③ 布をかけゴムで留める



④ 草が生えることもある

## ◆腐葉土を使う堆肥作りのメリット

- **軽い**ので移動するのが楽です
- 微生物の働きで**分解が早い**。
- **容器1つ**で堆肥作りを続けられます。
- **臭いはほとんどありません**が、気になる場合は落ち葉や枯草を入れてください。

## 3.11 あの日から1年

### —— 現実 ——

たまたま主人の実家が福島県に有る為、とても気になっていたので8月に行ってきました。その時叔父から相馬のほうがいぶひどいことになっているという事なので一緒に車で行ってみることにしました。聞くと見るとは大違ひとはこのことです。余りの悲惨さに言葉を無くしました。

タンクローリーは田んぼであったであろうと思われるところの真ん中に横倒し土に埋もれた状態で放置され、消防自動車もとんでもないところに転がっていたり、山積になったがれきの山、自動車の山、流木の山と目を覆いたくなるような場面が次々に現れてきました。少し小高い丘の上の一軒家、あの家は災害から逃れられたんだわと思ったのもつかの間、前に回ってみたら外側だけで中はすっぽり抜け落ちていました。波よけのトーテンポールも海から数キロ離れたところまで押し流されていました。自然の猛威の凄さと恐ろしさとは人間の力ではどうすることもできないことをまざまざと感じざるをえませんでした。

東日本大震災の被災者のため、また被災地復興に向け今多くの人達が祈っています。ここ最近まで愛が軽んじられてきたのではありませんが、大震災は人々の絆の尊さを再認識するとともに、社会や心の在り方を問い直すきっかけともなったと思います。その変化が良い方向に向かうことを願い続けたいと思うばかりです。(K.N)



### —— 安全神話 ——

東日本大震災が起こってから、約1年が過ぎた。しかし、あの日のことは昨日のことに覚えている。昨日のことも覚えていない今日この頃だということにだ。最近でも、大地震は頻繁に起こってはいるが、今回の原子力発電所のメルトダウンを引き起した津波と地震は、今までのものとは、全く違ったショッキングな感じを受けた。映像の力が大きいのだろうか。阪神大地震では、高速道路が横倒しとなり、土木構造物の安全神話が崩壊した。土木屋である私にとって、この時のショックは相当なものであった。当時、「自然の力の前には、人間の技術に絶対などというものはなく、神話などを信じる方がおかしかったのだ。」と反省した。そして、今回は原発の安全神話の崩壊である。私は原発神話を信じてはいないつもりだったが、ここまで深刻な事態になるとまでは考えていなかった。原発事故の恐ろしさを再認識するとともに、自分の考えの浅さに、またもや打ちのめされた。(現役を引退していてよかった・・・?)

東北の復興までには、かなりの時間が必要だと思う。非力な私ではあるが、少しでも自分にできることを継続して行いたいと考えている。 がんばれ東北!! (T.M)



24年度講習会日程 ・グリーンパレス(土) 4/21・5/19・6/23 ・タワーホール船堀(木) 4/26・5/24・6/28

今回は イベントも少なかったこともあって 当クラブの『新しい堆肥作り』を取り上げました。プランター、腐葉土を前面に出しての講習会は今までなかったことなので 会員の皆様に特別講習会での話し合いを記録してお届け致します。是非お試しいただきご感想、ご質問等お寄せ下さい。直接講習会場へ お出で下さること大歓迎です！ご連絡をスタッフ一同お待ちしております。